

図書館 だより

第四号

平成19年
7月6日発行

みなさん、こんにちは。七月にはいり、春学期も残すところ、あと一ヶ月となりました。そろそろレポートやテストの準備で忙しくなってきた頃ではないでしょうか。

今月も下記のカレンダーの日程で、図書館を開館しますので、ぜひ利用してください。また、新着図書もたくさんはいりました。あなたの読みたかった一冊を、図書館で探してみたいかがでしょうか？

授業の中で先生方が指示してくださる参考図書。皆さんは、今まで使用したことがありますか？「図書館に行っても、どこにおいてあるのか分からない」、「探すのが大変で面倒くさい」と感じたことはありませんか？また、今まで一度も利用したことがないという方も多いのではないのでしょうか。

そこで今回、二階閲覧室入口に**参考図書コーナー**を新設しました！このコーナーには、皆さんが授業で紹介された本や文献が、先生ごとに並んでいます。以前よりも参考図書を探すのが、とても楽になりました。今回を期に、ぜひ利用してみてください。

図書館カレンダー 7月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

黒 … 開館日 時間 8:45~18:00
 緑 … 土曜開館日 時間 9:00~16:30
 赤 … 休館日

また、検定・資格試験等のテキストは、一階閲覧室に移動しました。こちらもぜひ利用してください。



先生方のおススメ本

今回おススメ本を紹介して下さった先生は

国際コミュニケーション科

『白砂洋志夫先生』です。

おススメ本

『沈黙の春』

レイチェル・カーソン 著

青樹築一訳 新潮社



コメント

レイチェル・カーソンは一九六二年に『沈黙の春』の出版により、農薬の過剰使用が自然界の営みに深刻な影響を及ぼすことを警告した、米国の女性の生態学者です。現代的な農業は農作物を害虫から守り、多くの収穫を得るために、農薬や人工物質を多量に消費することで成り立っています。そのまま続けていると、生態系の自然循環の営みが破壊され、自然界を構成している微生物、昆虫、小動物、大型動物が滅亡し、春になっても森や湖に生き物の姿は見えず、鳥の声も聞こえてこない状況が人間のところにまで迫っていることの警告です。この本の題名は、その世界を提示しています。

内容は、科学や化学の知識を必要としますが、その部分を飛ばして読んでも、十分にレイチェルの伝えたかったことは分かります。癌を患っていたレイチェルは、この本が出版された二年後に亡くなりました。出版後、四十数年経っていますが、現在の地球環境を考えると、最後の案内書として、さらに輝きを増しています。

特に、最後の十七章「べつな道」は、生態系に依存していることを忘れてかかっている人間の生き方に、再考を求めているレイチェル・カーソンの遺言です。